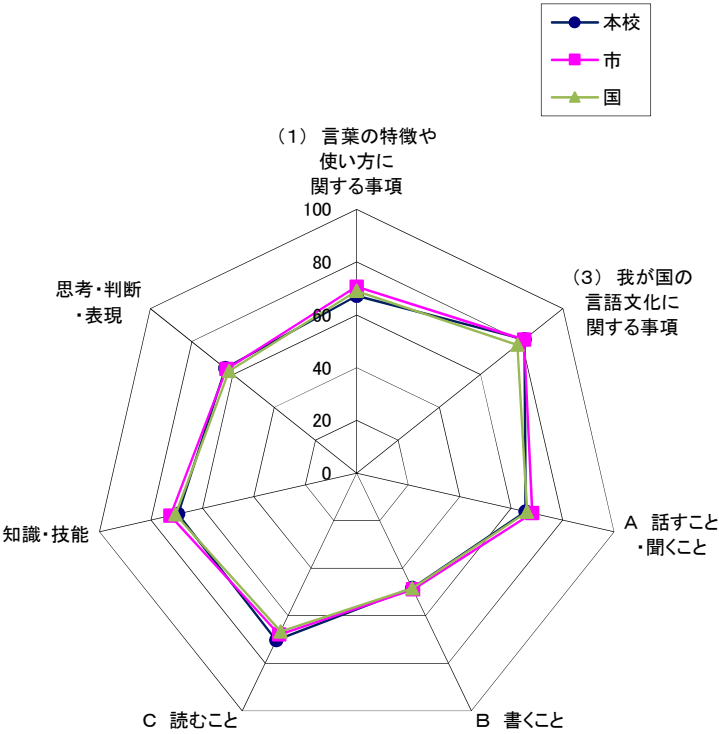


宇都宮市立城東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	67.2	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	81.3	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	65.6	68.2	66.2
	B 書くこと	48.4	48.9	48.5
	C 読むこと	70.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	69.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.7	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

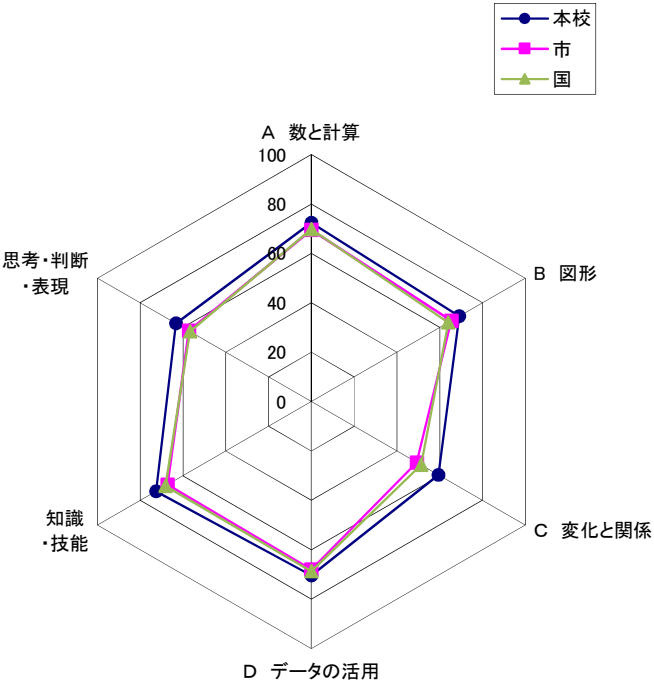
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	●「言葉の特徴や使い方にに関する事項」の正答率は、全国や県の平均正答率を下回っている。 ○「話し言葉と書き言葉との違いを理解する」設問では、全国の平均正答率を2.9ポイント上回っている。 ●「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」設問では、全国の平均正答率を2.1ポイント下回っている。	・話し言葉で正しく内容を伝えるために、誤解されやすい同音異義語の使用を避けたり、誤解されないように説明を補足したりして会話力を高められるように、授業や日常の様々な場面で指導する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書く」設問では、全国の平均正答率を1.8ポイント上回っている。	・読みやすい文や文章を書くために、今後も点画の書き方や文字の書き方に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くように授業や日常の様々な場面で指導する。
A 話すこと・聞くこと	●「話すこと・聞くこと」の正答率は、全国や市の平均正答率を下回っている。 ○「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える」設問では、全国の平均正答率を1.2ポイント上回っている。 ●「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」設問では、全国の平均正答率を2.4ポイント下回っている。	・話し合いをもとに、自分の考えを根拠を述べながら示す力を伸ばすために、授業や学級活動において相手の考えに対する自分の考えを、書いたり話したりする活動を取り入れる。
B 書くこと	●「書くこと」の正答率は、全国や市の平均正答率を下回っている。 ○「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」設問では、全国の平均正答率を4.3ポイント上回っている。 ●「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」設問では、全国の平均正答率を8.5ポイント下回っている。	・自分の考えが明確に伝わる文章を書けるようにするため、作文の際に文の構成や書き表し方に着目して推敲する活動を取り入れる。 ・日常生活の中で文章を書く機会を増やしたり、授業の中で文章を書く機会を多く取り入れたりして、習慣化を図り、スキルの向上を目指していく。
C 読むこと	○「読むこと」の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○「登場人物の相互関係について、描写を基に捉える」設問では7.5ポイント、「表現の効果を考える」設問では11.3ポイント、全国の平均正答率を上回っている。 ●「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」設問では、全国の平均正答率を4.6ポイント下回っている。	・読書経験を豊富にすることで、文章に触れる機会を増やし、読解力の向上につなげる。 ・文章中から必要な情報を見付けたり、要約したりする機会を増やし、文章の要旨を的確に捉えられるようにする。

宇都宮市立城東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.4	69.5	69.8
	B 図形	69.1	65.4	64.0
	C 測定			
	D 変化と関係	59.4	49.3	51.3
	E データの活用	70.4	68.0	68.7
観点	知識・技能	72.6	67.3	68.2
	思考・判断・表現	63.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

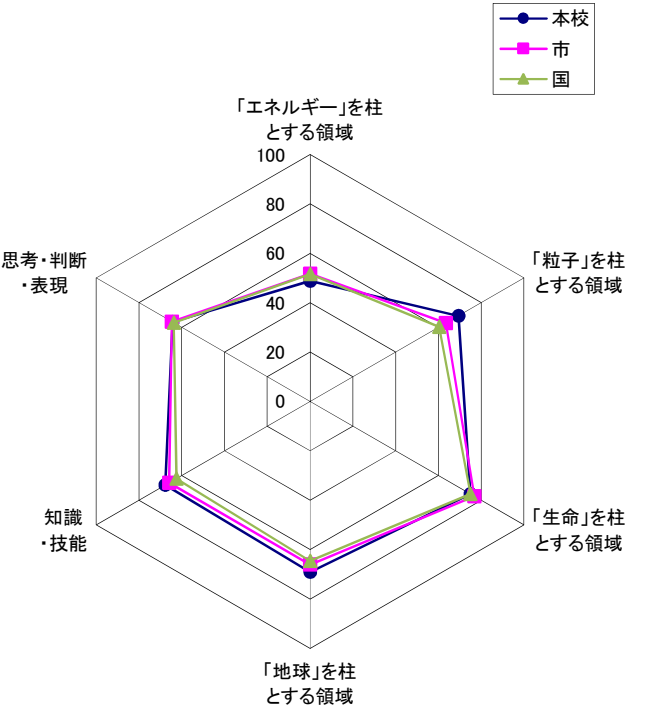
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○「数と計算」の正答率は、全国や県の平均正答率を上回っている。 ●示された場面を解釈し、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題は、県平均を1.3ポイント、全国平均を1ポイント下回っている。	・計算技能の定着がみられるので、引き続き計算検定などを活用しながら計算練習を繰り返し、より正確な計算技能が身につくよう指導していく。 ・立式した理由を問う発問を授業に取り入れることで、求め方を説明できるようにする。
B 図形	○「図形」の4つの設問全てが、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○プログラムで正三角形の角を作図する問題では、全国や県の平均を10ポイント近く上回っている。 ●長方形の性質を理解した上で作図する問題では、全国や県の平均を上回っているが、1ポイント上回っているだけで他の設問と比べると平均正答率が低い。	・図形の問題では、普段の学習の成果が見られた。今後も引き続き、辺や角など図形を構成する要素に着目し、必要な情報を書き込み、問題を解く指導を行っていく。 ・一人一台端末による、プログラムを用いた活動を授業で多く取り入れた。他にも、実際のロボットにプログラミングして、指定された道を進む活動も行った。今後も、一人一台端末を活用したプログラミング学習、作図の学習を行っていく。
C 変化と関係	○「変化と関係」では、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○示された場面を理解し、数量が変わっても割合は変わらない問題と、比例を用いて数値を求める問題では、両方とも全国や県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●百分率で表された割合を分数で表す問題では、全国平均を0.8ポイント下回っている。	・「変化と関係」では、定着が見られた。今後も、比べられる量ともとにする量はどの数値に当たるかを検討したり、数値の変化を表にまとめ、変化の仕方を考えたりする場面を授業で多く取り入れ、さらなる習熟を図りたい。 ・割合を百分率や分数、小数で表すことが苦手な子が多いと考えられるので、「10%は0.1」など簡単な数値を例示し、数値が変わると、どう変化するかを考える場面を取り入れていく。
D データの活用	○「データの活用」では、全国や県の平均正答率を上回っている。 ○データを基に、目的に応じてデータの特徴を捉える問題では、全国や県の平均正答率を10ポイント以上上回っている。 ●表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求める問題では、県平均を1.3ポイント上回っているが、全国平均を1.9ポイント下回っている。	・「データの活用」では、定着が見られた。今後も、データから必要な情報や数値を選び、計算し答えを求める問題を各自が時間をかけて取り組む場を確保することで、さらなる習熟を図りたい。 ・問題文から必要な情報を検討させ、表に書き込ませながら問題を解く活動を取り入れることで、情報を整理し解く力を高めていく。

宇都宮市立城東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	48.8	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	69.4	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	75.0	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	69.1	66.1	64.6
観点	知識・技能	67.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	64.3	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	●「エネルギー」を柱とする領域の平均正答率は、全国平均や県平均に比べて2.8ポイント下回っている。 ●「日光は直進することを理解している」設問では、全国平均や県平均と比べ、平均正答率は10ポイント前後低い。	・3年生で学習した内容であり、平面鏡を使い日光は反射させることができると、一定の理解はできていると思われるが、本題のように、円形、三角形、四角形に切り抜いた段ボールの板に日光を跳ね返し、通過させて壁の左端的に当てるという条件を経験していないため、単純に正面から光を反射させたと解答する児童が多かった。今後は、一人が日向に立ち、他の児童は日陰で光を跳ね返しつないでいくといった活動を取り入れ、光の筋が見えるようにすることで、理解を深めるようにする。
「粒子」を柱とする領域	○「粒子」を柱とする領域の平均正答率は、市平均を5.9ポイント、県平均を7.8ポイント、全国平均を9ポイント上回っている。 ○「水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見出し、問題に対するまとめを選ぶ」設問の平均正答率は、全国平均や県平均を6ポイント以上上回っている。 ●「一定量の液体の体積をはかりとる器具の名称を書く」設問では、「メスシリンダー」と解答できた児童の割合は全国平均、県平均を上回るものの、無回答者が1割おり、課題が残った。	・問題に対するまとめを検討して、改善し、その考えをより科学的なものに変容させるなど、自分の考えをもつことができる児童が多いと思われる。今後は、観察、実験などの後に結論を導きだすときに、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直したりしながら、多面的に考えるといった考え方を働かせて考察を行い、問題を解決できるように、予想や考察の交流、グループで意見をまとめるなど協働して行う学習を多く取り入れる。 ・水の量や温度などの条件を制御しながら、ものの溶け方の規則性を調べる活動を通して、児童全員が実験技能を身に付けられるように配慮する。
「生命」を柱とする領域	○「生命」を柱とする領域の正答率は、全国平均や県平均、市平均とほぼ同等である。 ○「自分の観察記録と新たに追加された他者の観察記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く」設問の平均正答率は、全国平均を7.5ポイント、県平均を6.4ポイント上回っている。 ●「見出された問題を基に、観察記録が誰のものであるかを選ぶ」設問の平均正答率は、全国平均、県平均より7ポイント程度低い。また、「育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に関する問題を見出して選ぶ」設問では、全国平均、県平均より11ポイント程度低い。	・モンシロチョウなどを飼育することを学習の中で引き続き行い、タブレット型端末のカメラ機能で昆虫の撮影を行うなどして、昆虫の育ち方には一定の順序があること、成虫の体は頭、胸及び腹からできていることを確認する。 ・観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるように、授業改善を図る。
「地球」を柱とする領域	○「地球」を柱とする領域の平均正答率は、市平均を3ポイント、全国平均、県平均を4.5ポイント程度上回っている。 ○「鉄棒に付着していた水滴と水の粒は何か変化したものかを書く」設問の平均正答率は、全国平均、県平均を大きく20.8ポイント上回っている。	・既習の内容や生活経験を基に、天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあること、水は空気中で目に見えない状態の水蒸気となって存在していることなどについて、科学的な言葉や概念を理解して関係付けて説明できるように、学習の充実を図る。 ・露や凍露など、水の状態変化によって起こる自然の事物・現象は早期でないと観察が困難なため、インターネットなどを用いて、画像や映像を利用して指導する。 ・1日の気温の変化を調べる観察では、天気と関係付けながら、根拠のある予想を立てさせたり、考察させたりする。

宇都宮市立城東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を10ポイント上回っている。家庭での睡眠の習慣が身に付いている様子がうかがえる。睡眠の大切さについて、児童への指導や、懇談会での保護者への啓発等、更に力を入れたい。

○「自分には良いところがあると思いますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を7.8ポイント上回っている。「城東っ子賞」や学級活動等で児童の善い行いを称賛する活動の成果が表れてきている様子がうかがえる。今後も、学習や生活など、様々な機会でも多くの児童の善い点を称賛し、自己肯定感を育んでいきたい。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」において、「ほぼ毎日」を回答をした児童の割合は、全国平均を14.7ポイント上回っている。本校と大学とが連携して取り組んでいるプログラミング教育や、授業の中で積極的にICTを取り入れてきたことなどが、児童の意識の中に浸透していると考えられる。今後もICTの有用性を検討し、有効に活用していきたい。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国の平均を6.5ポイント上回っている。本校で昨年度から取り組んできた特別活動の研究を進めることで、児童の意識の中に話し合い活動の大切さが浸透したと考えられる。今後もさらに研究を深めていきたい。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国平均を2.5ポイント上回っている。漢字検定への取り組みが児童の意欲を高めていると考えられる。児童がさらに国語に興味をもてるような教材の工夫や、家庭学習の啓発等をより積極的に行っていきたい。

●「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国平均を7.9ポイント下回っている。今後もさらに算数の学習の中で、実生活での活用場面を設定するなどして算数の有用性を伝える授業の工夫に取り組んでいきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に肯定的回答をした児童の割合は、全国平均を7.6ポイント上回っている。今後も、普段から児童とのコミュニケーションを図り、担任教員以外にも話しかけやすいような環境づくりに努めていきたい。

宇都宮市立城東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的な知識・技能の定着	本校では、「校内漢字・計算検定」を年間10回実施したり、市のステップアップシート（ミヤリーテスト）を活用したりして、基礎基本の定着に努めている。また、朝の学習（パワーアップタイム）を各学級ごとに計画的に実施し、プリントやドリル学習を行っている。	国語では、「言語の特徴や使い方にに関する事項」の正答率が、全国、県を下回っている。漢字や語句を文の中で正しく使う設問においては、無回答率が高いものや、正答率が低いものがあり、課題が見られる。 算数では、「知識・技能」の観点で全国、県の正答率を上回っている。「数と計算」の正答率は、全国、県を上回っている。計算の基礎技能が定着しているといえる。
ノート指導の充実	校内ノートコンクールを年2回実施している。低・中・高学年、それぞれの発達段階に応じて明確な目標を設定し、学校全体で分かりやすいノートづくりの指導を行っている。自分や友達の考えをノートにまとめる時のきまりやマークを校内で統一している。模範となるノートを展示し、同学年、他学年のノートを見ることで、児童がよりよいノートづくりを意識できるようにしている。	国語の「書くこと」の領域は、全国、県の正答率と同程度である。質問紙では、「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」と肯定的回答をした児童の割合は、全国、県の平均を上回っている。各教科の記述式の設問において、無回答も多い。
児童が学ぶ楽しさを味わい 進んで考える授業づくり・ 学びの「城東スタイル」	学校課題「学ぶ楽しさを味わい、進んで考え参画する子供の育成～よりよい集団活動を通して、なりたい自分をつくる『城東スタイル』の構築～」を昨年度から継続し、児童が学ぶ楽しさを感じながら思考力・判断力・表現力を発揮して主体的に学習活動に取り組めるような授業づくりを目指している。めあてを明確に示し、見通しをもって自ら課題に取り組んだり友達と学び合ったりできるような学習環境づくりに努めている。	国語、算数、理科ともに、「思考・判断・表現」の観点において全国、県の平均正答率を上回っている。 国語では、「話すこと・聞くこと」の正答率が全国、県の正答率をやや下回っている。特に「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」設問では、45.3%と全国、県を下回っている。 理科では、「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する」設問において、正答率は全国を下回っており、無回答率も高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語、算数、理科ともに、記述式の設問においての正答率が低く、無回答率も高い。 国語では、知識・技能の観点で全国、県の正答率をやや下回っている。算数と理科では、知識・技能の観点で全国、県の正答率を上回っている。	自分の考えを図や文章で表現し、他者に分かりやすく伝える力の育成	学年の配当漢字を文の中で正しく使えるよう今後は「漢字検定」だけでなく、文章の中で漢字を書く機会を意図的に設けることで「漢字」や「作文」の技能を高めていく。 今後も各教科等でめあてやねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合う活動が充実したりするような授業づくりを目指す。また、授業のまとめや振り返りにおいて、学習したことを考えさせ、目的を意識した文章を書くように指導していく。